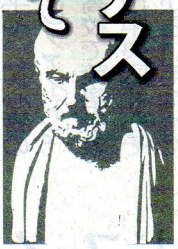
肉の安全・安心は
北陸ミートから！
HACCPシステム対応 北陸ミート株式会社
本社・工場／富山市金屋 2718 番 13
☎(076)443-7272 (代)

富山

ヒポクラテスを超えて



＞4＜

巻子さんの容体

〝最期の生き方〟求め

◆「会話」の途切れ

2013年1月5日だった。富山市内の病室。松尾幸郎さん(77)が「正月だから何か言えるか」と聞くと、妻巻子さん(70)は2回まばたきで「イエス」の合図を出した。そしてこう伝えた。

「あいしていますよ ゆきおさんを」

「ありがとう、おれも愛しているよ」。顔を近づけた幸郎さんに巻子さんはにっこりしたように見えた。

しかし、翌日からはそれまでのように力強いまばたきができなくなり、文字を拾えなくなった。「臓器の機能が衰えてきた」と幸郎さんは言う。「目の筋肉も衰えているのかもしれない」

◆「その時」に向けて

その年の7月。米ニューメキシコ州アルバカーキ。空はとにかく青い。この空を求めて、フェスティバルの日は気球ファンたちが集まる。ぷかりと浮いた色鮮やかなバルーンで空はにぎわう。

抜けるような晴天に「『日本晴れ』だな」と幸郎さんは思う。ここの一画に中古の一軒家を買った。薄茶色の外装は周りの家々も一緒だ。米国在住の長女(44)の家にも歩いて2分ほどと近い。

巻子さんにいつ「その時」が訪れるか分からない。その時は日本を出るつもりだ。「ママーが死んだらおれはお前の所に行く。子供や孫たちにみとられて死にたい。そして遺灰を拾ってほしい。いいか？」。幸郎さんが聞くと長女は「分かった」と答えた。

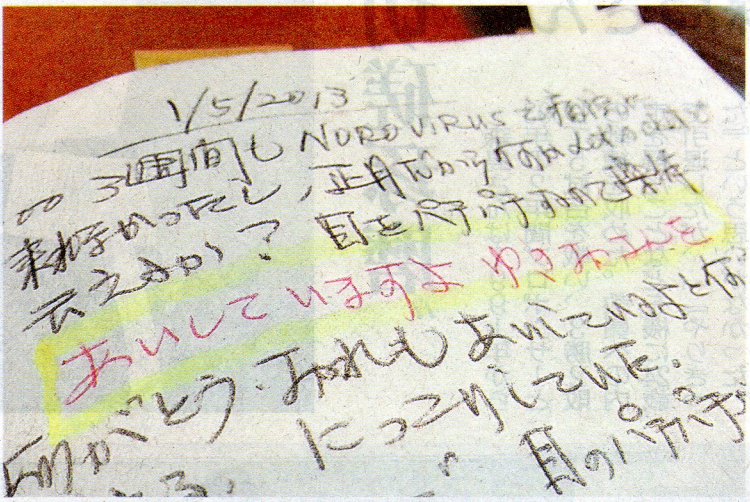
◆メール

富山は秋を迎えた。幸郎さんのキーボードを打つ音が自宅の作業部屋に響く。

「最近は血圧は70台・40台の時が多い……。従って、今後も注意深く見守る必要あり。とりあえず現状報告です」。巻子さんの病状を細かく記したメールを書くと「送信」のボタンを押した。送り先は米国の長女とタイにいる長男(42)だ。文面は巻子さんの容体が悪化していることを伝えていた。

腸や心臓の機能は弱ってきている。血液をさらさらにする薬、尿を出やすくする薬、関節が固まらないためのマッサージ――。薬と器械によって生かされている巻子さんを見て「今の生き方は尊厳ある生き方なのか。本人が望む〝最期の生き方〟なのか」と幸郎さんは思う。今年いっぱいもつか。その覚悟はしている。そして、その覚悟が語り部活動でもにじみ出るようになった。「尊厳を持って生きる。尊厳を持って老いる。尊厳を持って死ぬ。死ぬということは〝最期の生き方〟。この言葉をずっと言い続けますよ」

＝つづく



松尾幸郎さんが赤い文字で書き写した巻子さんの言葉。これを最後に〝会話〟は途切れている